

● 株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
基準日	定時株主総会 毎年12月31日 期末配当 毎年12月31日 (中間配当を行う場合は毎年6月30日)
定時株主総会	毎年3月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場
公告方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.ibokin.co.jp/ir/notice.html (ただし、電子公告によることができない 事故、その他のやむを得ない事由が生じた ときは、日本経済新聞に公告いたします。)

株主の皆様への
利益還元に関する基本方針

当社は、株主の皆様への安定配当を継続することを基本としつつ、将来の事業展開と財務体質の強化のために必要な内部留保の充実を勘案して配当を行うことを基本方針としています。株主の皆様への安定配当が実施できるよう今後も努めてまいります。

また、内部留保資金につきましては、企業体質の強化に向けて財務体質の充実を図りながら、当社グループの経営基盤の整備・拡充等に有効活用し、当社グループの競争力及び収益力の向上を図ってまいります。

なお、当社取締役会の決議により、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当(中間配当)ができる旨を当社定款に定めていますが、当面は定時株主総会を決定機関とした原則年1回の期末配当のみを行うことを基本方針としています。

	2022年12月期	2023年12月期 (予想)
1株当たり配当金	22.50円	22.50円

ホームページのご案内

ホームページをリニューアルいたしました。
詳しい企業情報や財務情報は、
当社ホームページをご覧ください。

イボキン

🔍 検索

BUSINESS
REPORT

第39期株主通信

2022年1月1日～2022年12月31日

安全・安心な社会と

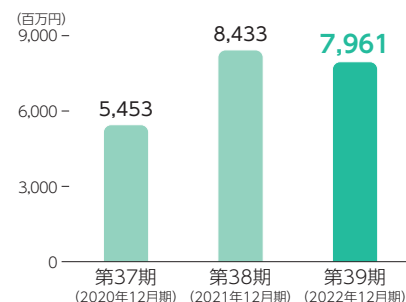
豊かな自然のために



スクラップ相場の上昇が大きな増収要因となりましたが、解体事業では高利益率の大型工事の減少があり、環境、金属事業では新収益認識基準適用に伴う売上高の減少があったことで、前連結会計年度実績を下回りました。

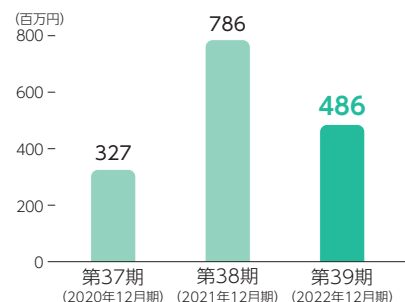
売上高

7,961 百万円 前期比 5.6%減 ↓



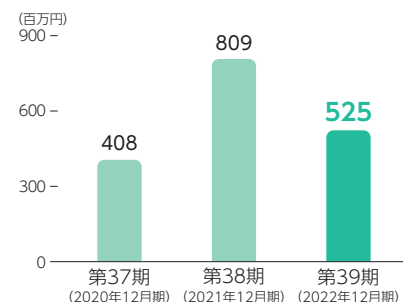
営業利益

486 百万円 前期比 38.2%減 ↓



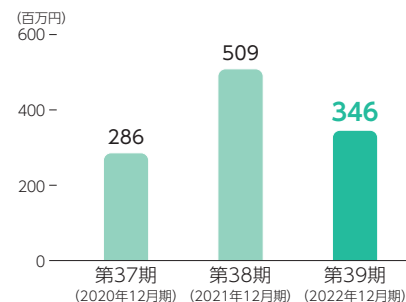
経常利益

525 百万円 前期比 35.1%減 ↓



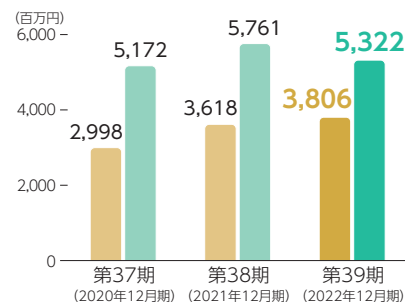
親会社株主に帰属する当期純利益

346 百万円 前期比 32.0%減 ↓



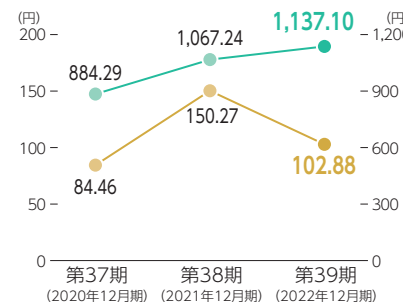
純資産 / 総資産

純資産 3,806 百万円 総資産 5,322 百万円



1株当たり当期純利益 / 1株当たり純資産額

1株当たり当期純利益 102.88 円 1株当たり純資産額 1,137.10 円



(注) 2022年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っています。これに伴い、第37期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益及び1株当たり純資産額を算定しています。

株主の皆様におかれましては、平素より当社グループ事業にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は1973年の創業以来、一貫してリサイクルに取り組んでまいりました。日本の高度成長期に生まれたビルやプラント、大型設備など、都市にストックされた膨大な資源を循環させることで、工業、産業に貢献し、わが国の発展に繋げていくという気概を持って取り組んでおります。

気候変動問題や資源枯渇問題をはじめ、持続可能な社会づくりのためのSDGsが世界的なテーマとなる中、私たちリサイクル産業が担う役割はさらに大きくなりつつあることを認識しています。この時代の課題に応えるために、私たちが持つ人的、物的資源、これまで培ってきた知見やノウハウを活かし、私たちには何ができるのか、何を身につけ、どう行動すればよいのかを見つめなおしました。

そして、私たちの目指すべき姿、あるべき姿が明確化し、イボキンコーポレートブランドとして、社内外へと発信していくことにいたしました。コーポレートブランドとは、当社と関わるすべてのステークホルダーの皆様との約束です。私たちが信頼し、期待を寄せて頂いている皆様に向けたメッセージとして、スローガンを「資源の一生に、夢と責任。」と定めました。一新したロゴマークは、当社が位置する「揖保」の地名の由来とも言われ、播磨風土記にも登場する「粒丘(いいぼおか)」の容姿をモチーフにデザイン。当社の本社にもほど近い「粒丘(いいぼおか)」を背景にしたこの地で、さらに躍進していく意志を、日が昇っていく表現と重ね合わせながら示しています。

新たなスローガンとともに、日本一のリサイクル企業を目指すイボキンにご期待ください。

株主の皆様にはなお一層のご支援を頂きたく、今後もよろしくお願い申し上げます。

資源の一生に、夢と責任。

都市には、役目を終えた多くの宝が眠っている。

建物やプラントをはじめ、機械、自動車、家電など、高度経済成長期以降の日本が産んだ無数の主役たち。

そんな資源の一生を、ここで終わらせる訳にはいかない。再び、新たな夢を実現する源として、さらに価値のある生涯へとバトンをつなげたい。

高いコンプライアンス意識で解体からリサイクル処理までを責任を持って行い、次世代の資源として必ず救い出す。

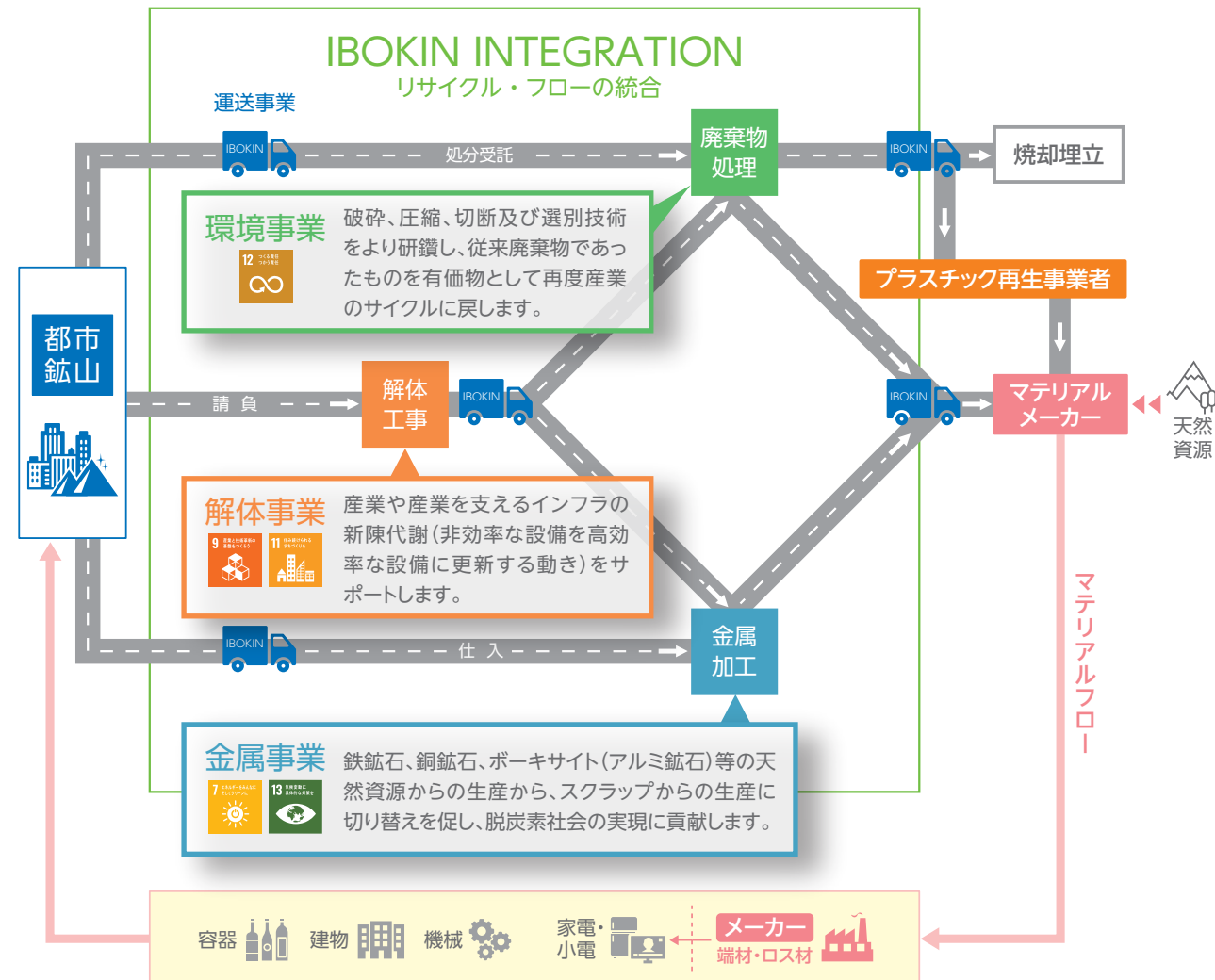
新しい循環型社会をリードする強い覚悟を胸に、イボキンは、今日も、サステナブルな世界の実現に貢献します。



代表取締役

高橋 克実

Business Model



Operating Results

これらの結果、売上高は1,293,231千円(前期比31.6%減)、営業利益は72,357千円(同77.8%減)となりました。受注残高につきましては、従来開示しておりました完成基準にて集計した場合、536,845千円となり、またこのうち工事の進行度に応じすでに売上計上された部分を除いた受注残高は487,607千円となりました。

これらの結果、売上高は1,725,941千円(前期比3.8%減)、営業利益は146,050千円(同33.0%減)となりました。

これらの結果、売上高は4,942,491千円(前期比4.1%増)、営業利益は268,119千円(同10.3%増)となりました。

TOPIC 1

風力発電設備解体工事を施工いたしました

資源エネルギー庁が福島県沖で実証実験を行っていた浮体式洋上風力発電設備が、研究の役割を終え、2021年から2022年にかけて株式会社吉田組様を中心とするコンソーシアムにて解体撤去されました。当社もその全体計画の中で、一部範囲を受け持ち解体工事、資源リサイクルに携わらせて頂きました。

今回解体した対象設備は、経済産業省が2012年から始めた実証研究事業で、数種類の浮体構造の洋上風車及び洋上変電所が検証されました。非常に大きく堅牢な構造の設備でしたが、当社、株式会社国徳工業(当社グループ会社)、他協力会社様が一丸となって取り組み、無事故無災害で作業を終えることができました。また、解体した鋼材、コンクリート、その他設備の再資源化、再利用に貢献することもできました。

未来の資源エネルギー政策に関わる事業に従事させて頂き、大変貴重な経験となりました。この実績をもとに、風力発電設備解体のリーディングカンパニーを目指します。



委託者：経済産業省 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部 新エネルギー課

受託件名：「令和3年度福島沖での浮体式洋上風力発電システムの実証研究事業(風車及び浮体等の撤去実証に係るもの)」

受託者：株式会社吉田組、ジャパン マリンユナイテッド株式会社、日揮株式会社、日本風力開発株式会社、大成建設株式会社

写真提供：経済産業省 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部 新エネルギー課、株式会社吉田組

TOPIC 2

超大型建物解体専用機の導入を決定いたしました

当社は、130トン級の解体工事用超大型重機を2023年中に導入することを決定し、工事現場へ投入する準備を進めています。この重機は、地上約40メートルの高所まで届くアームをもち、地上から直接解体作業を行うことができます。

これにより、従来のように高所まで重機を楊重し、階上から解体する工法や、作業者のゴンドラを楊重して作業させる工

法のように、高所に作業を送り込まずに済むケースが増え、安全性が飛躍的に高まり、また作業の効率化により、工期の短縮にも役立つものと期待されます。

当社は、安心安全をサービス品質の一つと考えています。品質の向上に向け、これからも積極的な投資を行ってまいります。

● 会社概要

(2022年12月31日現在)

設立	1984年8月
商号	株式会社イボキン
本社	兵庫県たつの市揖保川町正條379番地
工場・支店	本部ビル、本社工場、龍野工場、阪神事業所、東京支店、福島支店、PMR工場、最終処分場
資本金	130,598千円
従業員数	149名(連結)
事業内容	解体事業、環境事業及び金属事業による総合リサイクル事業
連結子会社	株式会社国徳工業
ホームページアドレス	https://www.ibokin.co.jp/

● 役員一覧

(2023年3月29日現在)

代表取締役	高橋	克実
常務取締役	山崎	喜博
取締役	高橋	守
取締役(社外)	永津	洋之
取締役(社外)	橋本	法知
常勤監査役(社外)	戸塚	いづみ
監査役(社外)	井上	利夫
監査役(社外)	長濱	晋

● 株式の状況

(2022年12月31日現在)

発行可能株式総数	12,800,000株
発行済株式の総数	3,427,200株
株主数	2,047名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
HS興産株式会社	1,280	38.23
高橋克実	364	10.87
イボキン従業員持株会	95	2.86
日本証券金融株式会社	52	1.56
川島敏邦	46	1.39
高橋完治	46	1.37
山崎喜博	40	1.19
成田極見	36	1.08
高橋 守	36	1.08
株式会社SBI証券	34	1.03

(注) 1. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 自己株式(79,292株)は上記大株主から除外しております。
3. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況

